

# 地域貢献を再確認

## 大学コンソーシアム石川 移転記念シンポジウム

大学コンソーシアム石川の移転を記念した戦略的産学連携支援事業（戦略GP）公開シンポジウム「生まれ変わる大学コンソーシアム石川とその将来像」は3月5日、金沢市の北国新聞交流ホールで開かれました。出席者は基調講演や報告、パネルディスカッションを通じて産学官連携の意義を再確認し、新たな「知の創出拠点」から地域の発展に貢献していくことを誓い合いました。



**基調講演**  
「戦略的産学連携支援プログラムの意図」  
伊藤健二氏（慶応大学大学院政策・マネジメント研究科特別研究員）

大学コンソーシアムに一番大事なのは、企業、地域との連携です。

企業とはどう連携していくか。企業人事担当者向けのアンケートで、25%が新卒のキャリア教育が十分ではないと回答した調査がありました。この結果を考えると、大学は

企業ニーズに応じて教育を改善し、学生に実践的なキャリア教育を実施する必要があります。企業側も大学に人材要件のメッセージを送っていた方がいいと思います。

企業はまた、大学に社会人向け教育も期待しています。大学は「社会の教育機関」として求められているのです。大学側はICT（情報通信技術

「産学連携」を推進する。企業はまた、大学に社会人向け教育も期待しています。大学は「社会の教育機関」として求められているのです。大学側はICT（情報通信技術



## 企業、地域と連携を

企業ニーズに応じて教育を改善し、学生に実践的なキャリア教育を実施する必要があります。企業側も大学に人材要件のメッセージを送っていた方がいいと思います。

企業はまた、大学に社会人向け教育も期待しています。大学は「社会の教育機関」として求められているのです。大学側はICT（情報通信技術

産学連携を推進する。企業はまた、大学に社会人向け教育も期待しています。大学は「社会の教育機関」として求められているのです。大学側はICT（情報通信技術

### 報告1

## 「戦略GPによって変わる新しい大学コンソーシアム石川の全体像」

古畑徹氏（同教務学生専門部長、金大人間社会科学研究教授）

移転と戦略GPにより、大学コンソーシアム石川はリニューアルします。従来と何が異なるのか。まず、教室の設備が変わります。2つのセミナールームには無線LANが敷かれ、Aにはアクティブ・ラーニング対応の設備、Bには遠

## ICT教育を推進

隔地の教室と結んで授業ができるテレビ会議システムやネットで授業を配信するための授業の自動収録設備などが備わります。

2点目がICT教育対応をスタートさせることです。テレビ会議システム、

教材を制作しましたし、遠方の方も気軽に受講できる本格的なeラーニング授業を開始します。また、教職員の能力向上のための大学合同FD（教員研修）・SD（職員研修）も実施します。

4点目は地域と大学と



このほかの報告者  
山田政寛氏（金大大学教育開発、支援センター准教授、水元明彦氏（教育支援センター）山田智子氏（産学連携センター）金大総合メディア基盤センター助教、金大放送センター・金沢英大、石川工専 産学連携推進センターの学生たち

の連携強化です。従来から行われてきた地域の課題解決方法を研究する大学のゼミへの支援を拡大し、複数ゼミ連携による研究を奨励、支援します。このほかにも、地域に必要な人材探しにも利用できる人材データベースを作成したり、高校生の大学研究室インターンシップ事業も始めるなど、大学コンソーシアム石川が連携強化の中核となる方向性を鮮明にします。

大学コンソーシアム石川は、いま以上に広く利用できる機関に変わります。高等教育機関だけでなく、自治体や経済団体、一般市民の方々には、もっと利用を考えてほしいと思っています。

パネルディスカッションは「新・大学コンソーシアム石川への期待」をテーマに6氏が登壇して開かれました。

伊藤健二氏（石川県企画振興部長・高等教育担当）は石川は学生の教育研究のフィールドとして、最高の環境とした上で、学生と地域をつなぐコーディネーターが必要と指摘。「それがコンソーシアムではないか」と役割に期待しました。古畑徹氏（金大教授）は移転に伴い「各高等教育機関の情報も集まり、コンソーシアムの機能がもう一ランクアップする」とし、鹿野勝彦氏（小松短大校長）は「大学などがない高等教育機関過疎地域をはじめ地域でコンソーシアムを使ってほしい。それが大学の存在基盤の強化につながる」と述べました。

森祥寛氏（金大総合メディア基盤センター助教）は「ICTは非常に強力なツール」と強調した上で、e教育支援センターで

## 「新生」に大きな期待 パネル討議で6氏

サポートしていく考えを示しました。伊藤健二氏（慶応大学大学院政策・マネジメント研究科特別研究員）は「石川の体制は産学官連携を十分に網羅できる」と発展に期待を寄せ、田中則男氏（北国新聞社論説副委員長）は「コンソーシアムには地域を変えていく可能性を感じる」と語りました。



大学コンソーシアム石川への期待を語る出席者

## 4月12日、しいのき迎賓館で業務開始

大学コンソーシアム石川は2006年4月、県内の大学、短大、高専の19高等教育機関、県、全市町、12の経済団体、1国際機関で発足しました。単位互換による教育の交流、地域社会・産業の連携促進を目指し、県庁広坂庁舎内に事務局を置き、金沢・いしかわまちなかキャンパス、出張オープンキャンパス、地域貢献型学生プロジェクト、地域課題研究ゼミナールなどの事業を展開してきました。4月10日に県庁舎のしいのき迎賓館に移転し、同月12日は業務を開始します。会長の中村信一金大校長は、大学コンソーシアム石川が移転によって生まれ変わることを強調し、「もっと多くの方々を知って、利用していただきたい」と呼び掛けました。